

# Dear地球民

第 27 号  
2004年3月発行

編集発行  
〒259-0311

ゆがわら国際交流協会  
神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1  
湯河原町商工会内 Tel.0465-63-0111



## 第18回やっさ国際交流

平成15年7月30日～8月6日



# The 18th やっさ国際交流



感動の初対面  
趙慧 さん（韓国）と工藤さん  
（7月30日湯河原駅にて出迎え）



これから一週間お世話になります  
シベールさん（ブラジル）許嘉純さん（台湾）  
と杉本ファミリー  
（7月30日湯河原商工会館にて対面式）

いい湯だなあ （8月1日独歩の湯体験）



一風呂浴びてさあ次へ！  
（8月1日独歩の湯にて）



食べるのもったいないよね！！  
（8月1日味楽庵にて和菓子と抹茶体験）



上手にかけたでしょ？李在恩さん（韓国）  
（8月1日商工会館にて習字体験）



これからやっさ頑張るぜっ！

左から、林慶星さん（台湾）ナッティボンさん（タイ）  
エジソンさん（ブラジル）ヴァギネルさん（ブラジル）  
ウーガンさん（モンゴル）スルダさん（中国）

（8月2日湯河原小学校前）



やっさやっさ〜

（8月2日やっさ祭り）



カラオケ最高♪

許嘉純さん（台湾）ジベールさん（ブラジル）

（8月3日ゆがわら童夢）

お母さんと一緒☆

ユミ・ニルマラさん（インドネシア）

（8月5日商工会館グッパイパーティー）



一週間お世話になりました

ジャニスさん（フィリピン）と中村さん



また湯河原に遊びにきてね

洪淑さん（台湾）と嶋岡ファミリー

カチア・ミ  
ドリ・カジ  
ハラ

秋山里花  
ブラジル

シハール・セシ  
リア・ユミ・ミナ  
ミ

杉本博彦  
ブラジル

エジソン・L・  
マルチンス・ナシ  
メント

棚橋由香利  
ブラジル

ヴァギネ  
ル・マサ  
ル・キム  
ラ

神野秀子  
ブラジル

蘇勒徳

鈴木孝芳  
中国

趙慧

工藤田鶴子  
韓国

楊侑

前田牧子  
台湾

李在恩

長谷川弘治  
韓国

ウーガ  
ン・ジャ  
ルガル

尖秀雄  
モンゴル

留学生  
の皆さん

ホスト  
ファミリー  
の皆さん

石井裕美  
ニルマラ

榎本香咲花  
インドネシア

バヤスガラ  
ン・ポロル  
サラ

高野和子  
モンゴル

ジャニ  
ス・ロン  
キニヨ

中村明  
フィリピン

許嘉純

杉本博彦  
台湾

洪淑

嶋岡浩二  
台湾

李ハナ

善本真人  
韓国

李昇熹

梅田勲  
韓国

林慶星

尖秀雄  
台湾

ナッティボ  
ム  
ン・タ  
ピヤーナン

早藤義則  
タイ

エマ・  
フォレス  
ター

高橋延幸  
オーストラ  
リア

山口達郎

高橋賢治  
日本



## 国内外親善交流フェア

03年11月23日に「国内外親善交流フェア」が桜木公園で開催されました。ブラジルコーヒー、ポップコーンの販売、当協会活動内容の紹介等を行いました。

また、国際理解講座では中国の葉維英先生に民族舞踏である“腰鼓秧歌”を披露していただきました。



(11月23日桜木公園前道路)



中国民族舞踏の腰鼓秧歌  
右：葉維英先生

(11月23日桜木公園前道路)



## クリスマスパーティー

当協会恒例のクリスマスパーティーが03年12月22日に湯河原童夢で開催されました。参加者は招待客や無料の幼児を含め、大人41名、子供14名の計55名で

ました。ビンゴ大会やオークションなどで楽しいクリスマスを過ごしました。



### クリスマスオークション売上金の送り先

オークションの売上金は71,830円で過去最高となりました。売上金は下記各団体へ送金させていただきました。

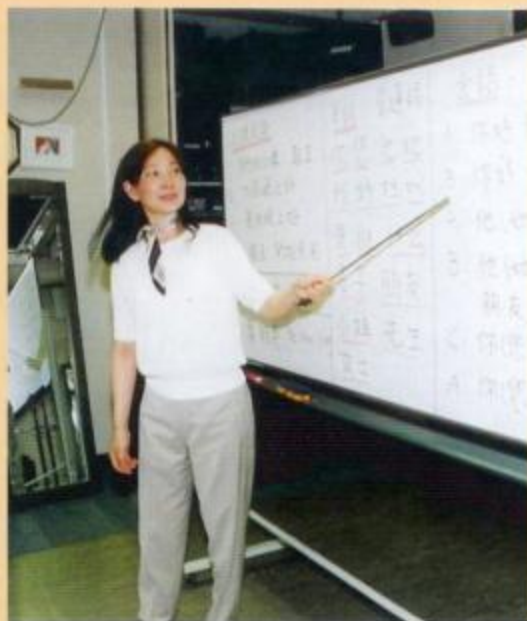
アブラサラプロジェクト(カンボジア教育支援)	¥10,000
NESA(ネパール教育支援)	¥10,000
シャプラニール	
(バングラディッシュ、ネパール農民自立支援)	¥10,000
あしなが育英会(遺児奨学金)	¥5,000
あしなが育英会(海外遺児心の支援口)	¥5,000
ワラプンヤ孤児基金(バングラディッシュ孤児院支援)	¥10,000
(財)日本ユニセフ協会	¥10,000
日本赤十字イラン南東部地震救援	¥11830

## 03年度中国語講座

平成15年5月11日～7月13日まで葉維英先生を講師にお招きして中国語講座をスタジオ千夢にて10回に渡り開催しました。15名の受講生が参加し、分かりやすい楽しい雰囲気の中で講義が行われました。また葉先生には11月23日の国際理解講座で腰鼓秧歌を披露していただきました。



熱心に講義に耳を傾ける受講生達



◎中国語講座 葉維英先生  
03年5月11日～7月13日（全10回）  
場所：スタジオ千夢 受講生：15名

## 英語授業風景から

講師のクリスはアトランタ（ジョージア州、米国）出身の33歳。顔イッパイの髭と、その奥に隠れた、シャイで優しい瞳が、印象的な先生です。

10月から10回に渡って行われた国際理解講座の一つである語学講座は、11月10日をもって終了した。受講生13名殆どが、初めての参加と言うことでした。30年ぶりに英語を習うという方もいらっしゃいました。

「指されると、ドキドキしちゃうのよ。」なんて言いながらも、日本語を全く喋らないクリス先生の質問に、難なく答えておられ、驚かされてしまいました。

初心者コースということでしたが、13人の方全てが、同じレベルという訳にはいきません。この点は、以前から国際交流協会でも、何度も話し合いをして参りましたが、なかなか「これだ!!」という解決策は見つかりませんでした。

しかし、私が参加した11月3日の第9回目のレッスンでは、それがいともシンプルに、自然に、そして効果的に解決されていました。

クリス先生の個別指導は丁寧で、できるまでその受講生の横で何度も繰り返しレッスンしていました。その間、他の方はペアを組んでダイアログの役割練習をしたり、質問をし合ったりして、貴重な時間をフルに使っておられました。

レッスン終了後に受講生の皆さんに、何か困ったことや不便がありませんでしたかと質問したところ、皆さんが“**No problem!**”とか「楽しかった。」と仰ってくださいました。

語学講座は、学ぶ意欲溢れる受講生の方のためにも進化して行かなくてはならないと思っています。皆様の意見やアイデアをどしどしお寄せください。（by k.k.）

◎英語講座 クリス・プロフィット先生  
03年9月8日～11月10日（全10回）  
場所：城堀会館、商工会館 受講生：13名

# 「海外旅行のための初級英会話」講座に出席して

「光陰矢の如し」時の過ぎるのは早いものです。去る9月8日より始まった英語講座が、もう終了を迎えてしまったのかと思うと本当に残念です。楽しいこと、自分の好きなことに没頭していると、時の経過を忘れてしまいます。

大変有益な講座に出席させていただき、ありがとうございました。心から感謝致します。

次に、私自身の雑感を述べさせていただきます。

## 1、「先生」について

非常に教育熱心で、授業時間の30分前には出勤されて、私の下手な英語にも話し相手になっていただき、大変「日常英会話」の勉強に役立ちました。

しかし、日本語を殆ど話されないので、欲を言えば今後の課題として、「初級英会話」を教えられる先生は、日本語が若干理解でき、話せる方が望ましいと思います。

## 2、「テキスト」について

程度/内容については、全く問題点はありません。

ただ、比較的理解が困難な英文に「日本語訳」が、手書きで書かれていたのは解せません。教える方にとって、親切心から書かれたかも知れませんが、受講生にとっては、難しい英文を自分の力で解き明かすのも、英語の一つの楽しみなのですから。

3、「授業内容/進め方」について  
全く問題ありません。満点です。

4、「国際交流協会の担当者」について

10回に授業の内、5回出席させていただきました。その時は、一生懸命やっておられると思います。私も、担当者欠席の時のみ「会場の管理」の役目を担当者代理として、微力ながら勤めさせていただきました。

事前に、協会の構成、事業内容など・・・電話でお聞きし、私自身も良く理解しておりますが、これから申し上げるのは、今後の問題としての提案事項です。

授業期間中は毎回必ず1人「協会の担当者」を出席させていただいて「受講生/先生とのコーディネーター役」や「授業の雰囲気」などの勤めを「会場の管理」の仕事と合わせて勤めていただけたら良いと思います。出来れば、英検2級以上の方が、最も理想的だと思います。

思いつくまま、乱文・悪文を綴ってしまいました。重なる失礼をお許しください。  
(河村 治)



## ミュージカル・「異国の丘」の観劇感想

正月の番組には現代色が余りにも濃厚過ぎて敬遠気味だった。ところが3日のNHK・BSで、偶然「劇団四季」のオリジナル番組「異国の丘」を観て気分一新した。

私にはこの番組に特別の思いがあり、いつか劇場でも観るつもりでいたが、チャンスを失い、幸いテレビで観ることができた。まず厳しい鍛錬を経た主演の石丸幹二氏のインタビュー挨拶の言葉から、その実情実態を拝聴して、さらに人に感動を与える出演者全員のダンス、歌唱力、確実なセリフ、その全てが世界的にも立派に通用する評価があると受けとめ、私も感動の余り思わず声をあげて絶唱した。

現在では既に縁遠い古典に属するこの話題を、劇作家浅利慶太氏がいかなる理由で、この話題を劇作化したのか、その真意の程は分らないが、当時の事情を知る者には、良くぞやってくれたという感激と感謝の一言に尽きる思いがした。

古典という言葉が私が先ず敢えて用いた説明をする必要があると思う。当時の日本に大きな影響力をもつ軍閥が、近衛文麿総理の戦争不拡大方針を無視し、逆行して拡大の一途に走り始め、結果として近衛公の退陣を迫り、軍人が軍務はおろか国政をも支配する時代となり、最後は太平洋戦争まで進展し、そして1945年の惨めな敗戦国となった。

近衛総理の秘書官にその長男文隆氏が勤めていたという。彼はアメリカの大学に留学し、自由と民主主義を徹底的に学び、それを十分に身につけた人物であった。

総理大臣近衛文麿は密かに当時の中華民国の総帥蒋介石と連絡をとり、戦争を避けた和平の途を探る為に、長男の秘書官を上海の隠れ家（重慶にいた蒋介石との連絡先の隠れ家）に派遣、その目的実現の直前に、日本の憲兵に見つかり、売国奴扱いを受け、あげく軍隊に徴兵召置され、その派遣先が、当時の満州国とソ連国境地帯だったという。そして日本国の敗戦を迎え、ジュネーブ条約を無視したスターリンは、六十五万人の日本兵を拉致し、シベリヤへ送り、そのためソ連邦の奴隷に近い強制労働をさせ、約六万人の日本兵は命を失ったのである。

秘書官の息子文隆氏も捕虜となり収容されていた。ソ連側は、彼の身分や立場を知り、なんとかソ連側の利用をねらった。しかし彼は最後まで不服従の節度を貫き、自己の信念を変えようとせず、ソ連側もその頑固不屈さに手こずり、密かに毒殺を図りついにそれを実行に移し、彼は日本への帰還はできなかつたのである。これはいささかのフィクションもない事実である。父親の近衛文麿氏も敗戦の責任をとり、我が子の後を追うかのように敗戦後服毒自殺した。

現在は共産主義国が消え、真の民主的平和が訪れようとしているが、真の平和の到来までほど遠いようである。

(石井立夫)

